

新著紹介

○飛躍日本の移植民地理

角井靖一著 南光社發行 定價二圓五十錢

人口の多い國土の狹隘な日本人は、今日世界到る所でしめだしを食つてゐる、それでも止むに止まれぬ意氣に燃えて、我等の同胞は太平洋岸の彼方此方に進出して、足利時代末期から海上に活躍した先人の蹤跡はおろか、南米に阿弗利加に換育すれば過去の世界以外にも、めざましく働きかけてゐるに際し、角井氏は、滿洲・南洋・大洋洲及び北米・南米に於ける邦人移植民の概要をまとめて菊版四一二頁の本書を世に問はれた。

我等はかゝる好參考書の出たことを一日も早く讀者に知らして、今日の移民の實際に對する常識を養成する渠に供したい、勿論範圍の廣いのをこの一冊にまとめたのであるから語つてまだ詳かならざる所がないではない、しかし著者は移民運動の歴史をのべ第二章に於て日本海外移民の沿革を明にして、現代に於ける世界の驚異せる日本人進出問題のよつて來る所の一朝一夕でないことを先づ明にしられてゐるといふ愛國の熱意がある、滿洲に對する移民の心得や南洋に於ける邦人企業の發達など耳新しい事實もよく集められてゐるので我等はこれによつて多くを學ぶことを喜ぶ、同時に北米に於

ける日本の移民やブラジルに於ける日本人の活動をのべてあるから、本書は日本人を中心としての重要な世界地誌の一部とも見るべきであつて、この書の出版に多大の敬意を表せざるを得ない。(藤田)

○フロック經濟地理

森武夫著 叢文閣發行 定價二圓五十錢

經濟地理學講座の第一編である、菊版四一〇頁で本書はフロック經濟の概念と由來などから説き起して、日滿フロックをはじめ英帝國フロック、フランスフロック、獨逸の自給自足及び米國の國防資源の五つの經濟地理的説明がしるされてゐる、就中日滿フロックと英帝國のフロックに主力をそゝぎ、後の三つは附録とでもみるべき程度である、蓋し日本を中心として考察すれば勢かうした説明で満足しなくてはならぬからである。時代の向ふ所をみるに必要な參考書として之を讀者にすゝめたい。(藤田)

○近世錦繪世相史 第一卷

平凡社發行 淺井勇助著 定價三圓八十錢

天保から嘉永・安政にかけての世相をみるべき錦繪コロタイプ版一四八、原色版色摺四枚で一卷となつてゐる、本書で最も注意をひくのは、露國造船繪巻で、これが我國海軍の軍艦製造の濫觴となつた、ついで横濱開港の圖・軍人遊興の岩龜樓、横濱外人行列など開國の有様を見るに、いかにも有益

な資料であることである、錦繪のよいのは勿論前代までであつて、幕末になると、畫工なども振はないやうに連斷してはいけない。本書色摺其他に立派なものもあれば、可驚き輕妙な諷刺畫が多い、單に美術品としてではなく、風俗世相を見るの資料として、恐らくは本書は江湖の歡迎をうくるであらう。(藤田)

雜報

○昭和九年度の日本貿易

本邦重要輸出品表 (一千萬圓以上)
(モノ三十品種)

綿織物	四九、三五一	生糸	二六、九三三
人造絹織	一三、四八四	機械類	七、七七七
鐵	五、〇〇元	罐詰食料品	五〇、〇〇四
メリヤス	四七、六二七	車輛及部分品	四、五九
陶磁器	四、八七	鐵製品	三、七六
玩具	三〇、五五	毛織物	二九、八四
小麥粉	二八、四五一	木材	三三、九二五
綿織糸	二二、四八四	人造絹糸	三、三九
履物	二、五四四	紙類	二〇、六五〇
*硝子及製品	一九、四五四	帽子	一七、八六〇
水産物	一六、四七三	ランプ及部分品	一五、六九六

肥料	一四、九八	砂	一四、五三
植物性脂油	三、元二	毛糸	二、一八四
きもの	二、六五	石炭	二〇、七五
身邊裝飾品	一〇、〇六五		

本邦重要輸入品表 (一千萬圓以上)
(モノ二十九種)

實綿及練綿	七三、四四	羊毛	一八、四四五
鐵	一七、五三	礦油	二四、〇三
機械及部分品	九、〇三	ゴム及樹脂	六五、九八五
豆類	五、六八	石炭	四七、二九二
肥料	四四、一四〇	紙用パルプ	四四、二五五
小麥	四〇、七八	木材	四〇、一八三
自動車及部分品	三、三〇三	飼料	三、〇七四
銅	二八、元九	礦	二七、八〇五
植物纖維(棉ヲ除ク)	三七、四六一	採油原料	三三、二五七
魚介	二〇、二八〇	鉛	一七、九三
磷礦石	一六、六七	皮革	一六、三〇
錫	一五、三六	食鹽	一四、八三九
硫酸アムモニヤ	一三、八〇六	綿織糸	一三、五一
アルミニウム	三、五七	紙類	二、九二

合計換算三億九千七百八十萬弗の輸入に對して三億七千七百十萬弗の輸出となり、二千萬弗の輸入超過となつた。同年英國の輸入は二十億五千八百萬一千弗、輸出十一億九千萬三